

# “公開”結婚式【OPEN WEDDING!!】のあとさき ～「私」をひらく②～

都市整備局都市デザイン室 桂 有生

## 1 結婚式の梁山泊?!

### ①結婚式嫌いの結婚式

昨春、ついに結婚することを決めたのには震災の影響もあったかもしれない。僕が万国橋SOKOの山本理顕さん(※1)の事務所出身なこと、相方はNHK横浜放送局のキャスター、文化担当ということもあって、創造界限、さらには日本各地にもお互い友だちが多い。結婚式でこの友人たちが出会えばおもしろいことになるだろうと気付いたが、そのためには普通の結婚式では物足りない。そこで、式というよりもアートやパフォーマンスを練り込んだひねりの効いたパーティをやることを思いついた。僕はつねづね、創造都市という政策の最大の成果は創造界限におけるパーティと、そこで生まれる人々の創造的なネットワークなのではないかと考えている。このネットワークを横浜の内外に広げる手段として、僕らの結婚式は実にいいツールのように思えてきた。人と人のつながりをつくっていくキャスターと、公共空間の利活用を考える都市デザイナー。どうしたら横浜の街を盛り上げられるパーティになるだろう?参加者間の交流が上手く回りだすだろうか?などと、結婚式としては甚だ不純な動機から企画を考え始める2人なのであった。

### ②集まる仲間

しばらく考えたのち、この企画を2人のディレクターにお願いすることにした。1人は創造拠点・宇徳ビルヨンカイ(※2)に事務所を構える建築家、番場俊宏さん。2人の共通の友人であり、企画力に加えて創造界限のパーティで培われたノウハウにも期待しての人選である。もう1人は都市デザイン室の先輩(現・港北区)、小田嶋鉄朗さん。その昔、WEDDING in YOKOHAMAという結婚式誘致の事業提案をされていたので、きっとおもしろがって手伝ってくれるに違いないとお願いした。すぐ分かったのだが2人は人を巻き込む天才で、じゃあグラフィックデザインはNOGANの茂木隆宏くん、食隊長はランドスケープアーキテクトの鈴木裕治さん、アートは今井基樹さん…などと創造界限を中心にあつという間に10人くらいの隊長定例会と50人近い運営組織をつくりあげてくれたのだった。

### ③ふくれあがる企画

結婚の報告に伺ったBankART1929/新・港村(※3)の池田修さんは「村というからには結婚式みたいな行事が必要と思ってたんだよ。企画書持って来てね。」と我々の式を新・港村の公式イベントにして下さった。新・港村でやれるなら一般公開、つまり誰でも参加出来る結婚式にしよう!と決めた時はみんなで興奮した(そして大変なことになると覚悟した)。それを受けて番場さんは「それなら象の鼻でもやりましょう!となると…新・港村まではパレードですね!」と、隊長2人で象の鼻テラ

スや創造まちづくり課の杉山昇太さんとぱっと話をまとめてくる。杉山さんもすかさずOPEN YOKOHAMA(※4)のイベントに位置づけてくれた。相方もアートや食に人脈を存分に發揮。僕はパーティ全体に筋が通っているか見守る程度で、花嫁の精神安定剤の役割に徹することとした。衣装や当日のヘアとメイクは新・港村に参加している服飾デザイナーの矢内原充志さんとアーティストの南雲由子さんが担当して下さることに。こうして様々な人々を巻き込みながらOPEN WEDDING!!は徐々にその姿を固めていくのであった。

## 2 開かれた結婚式

### ①象の鼻テラス

直前までバタバタしながら迎えた当日。背番号つきジャージのダンスカンパニー:まことクラブの素敵なパフォーマンスで式は幕を開けた。このパフォーマンスが象の鼻パークにいた観光客をぎゅっと惹きつけ、招待客

写真1 帰りに集合写真が号外に。

Edit:©NOGAN Photo:©427FOTO

Open wedding News paper @eha minatomori

volume EXTRA wednesday August 23, 2011

## Y & Y Wedding Times

Happy Wedding & Good Life

Extra

For all lovers of Yokohama and Yuki & Yuka

Published by open wedding creative committee



Open wedding Committee : Lovers happy life!

Photo: photo credit: shiroko (427FOTO) creative committee: NOGAN creative agency / eha minatomori / eha team

にも「これはただの結婚式じゃない！」と印象づけることで、本当に式をOPENなものにしてくれた。クリエイティブの力を感じた瞬間。その勢いでヨコトリキャラバンズのダンスに誘導してもらい、外で撮った集合写真では、友人たちに入り混じって観光客も巻き込んだみんながハートをかたどって楽しい写真が生まれる（写真1、撮影は427FOTO：ヤマワキタカミツさん）。

## ②パレード

2人の乗った缶々付きベロタクシーの後ろを約300人が新・港村までパレード。壮観。ベロタクシーは僕が参加していた故・北沢猛さんによる都市の研究会、UDSY（横浜アーバンデザイン研究会）の仲間が手配してくれた。パレードはまさにOPEN、象の鼻や赤レンガ倉庫の観光客や他のイベント参加者の方々から祝福して頂く。同時に横浜を訪れている人々にも幸せな雰囲気をお返しする、という狙いも上手くいったのではないだろうか。

## ③新・港村

キャラバンズのダンス、新郎の東京芸大同級生による声楽隊が迎えてくれる中、新・港村でのパーティがスタート。参加者はまず、アーティストとのワークショップに参加して新郎新婦にプレゼントする作品を一緒になって創り上げる（写真2）。川塾龍三さん（切絵でつくる本のオブジェ）、ねんど丸岡田ひとみさん（粘土のウェディングケーキ）、横浜FUNNEプロジェクトのみなさん（ダンボールの船とタペストリー）、しでかすおともだち（勝手にお客さんをドレスアップ）による各ワークショップは、協力して何かをつくったり、自己紹介が必須だったり参加者間の交流がうまれやすい趣向にした。食事は横浜の名シェフ達が名を連ねる横浜ガストロノミ協議会と新婦なじみの中華街の店が和洋中、横浜らしい食を揃えて下さった。2人で参加している横濱まちづくり倶楽部の近澤弘明さんや、横浜市大・国吉直行さん、NHK横浜放送局長・柳田昌賢さんによるご挨拶も、横浜局の近藤諭ディレクター作の新郎新婦紹介ビデオも、お土産に配った号外（写真1）もブルーダルチョコも、細部まで横浜の人たちによる横浜づくしな結婚式に出来た。実際のところ、いわゆる結婚式らしいことはほとんど何もなかったけれど、思っていた以上に横浜を見てもらう機会や交流に溢れた式となった。

写真2 みんながアーティストとつくってくれた作品。

©427FOTO



## 3 ひろがる波紋

### ①メディアも注目?!

次の日、神奈川新聞とヨコハマ経済新聞が横浜らしい、アートによるパブリックな結婚式と大きく記事に取り上げてくれた（紙面で結婚を知った方もいて連絡不行届きについては反省）。雑誌『広報会議（宣伝会議）』にも「いまどきの結婚観」として記事が掲載された。Facebookやmixi、Twitterはみなさんのご招待や広報、情報共有などに随分と活用した（この原稿依頼もFacebookがきっかけで頂いた）が、式の後も多くの人を取り上げてくれ、例えば、まことクラブのパフォーマンスはYoutubeにアップされていて、今も観ることが出来る。

### ②ひろく・ひろがる・つながる

都市デザイン室に問い合わせたり、リーフレットを見たから、と参加して下さった方々が実際にいたのも嬉しかった。最近では式で知り合った隊長たちが一緒に組んで仕事をしたり、新たな広がりも続いている。結婚式に限らず、こうしてひろくことは様々な展開や思わぬ収穫、可能性につながっている。今回「これも都市デザインの力ですね」と褒めて下さった方がいたけれど、様々な横浜の力を集結することではじめて実現出来たわけで、みなさんの協力には本当に感謝。これからもひろくことでひろがる・つながる都市のデザインを通して、横浜をおもしろくしていくことで報いたいと思うのである。

写真3 みなとみらいをバックに、手伝ってくれたみなさんと。

©427FOTO



- ※1…万国橋SOKOは横浜の創造都市拠点のひとつで倉庫を改修したオフィスに多くのクリエイターが事務所を構える。山本理顕さんは横須賀美術館などで知られる建築家。
- ※2…宇徳ビルヨンカイも創造拠点のひとつで、その名の通り宇徳ビルの四階にある。前身は本町ビルシゴカイ。
- ※3…BankART1929は創造拠点の中心的役割を担うプラットフォームで、ギャラリーのみならず、数々のスクール、出版、パブなどの機能を持つ。昨年のトリエンナーレ期間中は新港ピアで新・港村（しんみなとむら）という小さな未来都市をテーマにした展覧会を行なった。
- ※4…OPEN YOKOHAMAとは通常クローズな場所の特別公開や、まち歩きツアーなどによってより横浜のことを知ってもらおうというキャンペーンのこと。全くの余談であるが、新郎新婦はOPEN YOKOHAMA2010で説明者、参加者として出会っている。